

資料提供

令和6年3月7日
課名：広報課
担当者：粟根
内線：2370
直通電話：082-513-2378

令和5年度広島県広報コンクールの審査結果について

市町の広報活動の充実を図るため、広島県が毎年、県内市町を対象に実施している広報コンクールの審査結果がまとまりました。

1 入賞団体及び作品（作品内容は別紙のとおり）

(1) 広報紙			
〔市 部〕			
◎最優秀賞	三原市	「 <u>広報みはら</u> 」	12月号
◎優秀賞	東広島市	「 <u>広報東広島</u> 」	7月号
〔町 部〕			
最優秀賞	海田町	「広報かいた」	10月号
優秀賞	北広島町	「広報きたひろしま」	6月号
(2) 写真			
〔一 枚〕			
◎最優秀賞	大竹市	「 <u>広報おおたけ</u> 」表紙	11月号
優秀賞	呉市	「市政だよりくれ」表紙	8月号
〔組 み〕			
◎最優秀賞	北広島町	「 <u>広報きたひろしま</u> 」表紙	7月号
優秀賞	三次市	「 <u>広報みよし</u> 」P.2～P.3	8月号
(3) 映像			
◎最優秀賞	廿日市市	「 <u>千年先も、いつくしむ。</u> 」	
優秀賞	三原市	【 <u>あなたはどうか楽しむ？三原やっさ祭り</u> 】	

※ ◎印の付いた作品を公益社団法人日本広報協会が主催する「令和6年全国広報コンクール」に推薦。

2 審査会 令和6年1月17日（水）

【審査員】 村上 美香（「my home town わたしのマチオモイ帖」主宰）
吉宗 五十鈴（世羅高原カメラ女子旅主宰）
石田 伸二（いしだカメラ店）
玉川 雄大（広島県広報課 デジタル・ディレクター）

3 審査対象

令和5年1月から令和5年12月までの間に発行、発表された3媒体5部門の広報作品で、17市町から応募のあった40点。

4 表彰

入賞団体へ賞状を送付する。

入賞作品は、記者クラブに展示します。[展示期間：～3月14日（木）まで] 是非ご覧ください。

この審査結果は県のホームページ（トップ→県政情報→広報・広聴→広報課→令和5年度広島県広報コンクールの審査結果について）でもご覧いただけます。

優秀賞

東広島市「広報東広島」(令和5年7月号)



■発行部数(年間発行回数): 96,650部(12回)

■担当課: 広報戦略監

■連絡先: 082-420-0919

【担当者より(主な記事の掲載意図)】

東広島市は、安心して子どもを生む育てられるまちへ向け、妊娠期から学齢期まで、各ライフステージでさまざまな施策に取り組んでいる。その中で、担当部署と検討を行い課題を洗い出した。課題解決に向けて、本特集において①妊娠期から乳幼児期の子育て世代が支援事業を利用し相談するという行動変容につなげること ②東広島で質の高い教育が受けられること、または質の高い教育を受けられる環境のまちでよかったと感じてもらい、シビックプライドを醸成することをねらいとして、紙面構成を行うこととした。

＝講評＝

- 子育てについて多角的に丁寧に取り上げており、「このまちで子育てしたら楽しそう、色々なサポートが受けられそう」とイメージできる内容になっている。
- 簡潔にまとめられており、コーディネータや利用者、子どもたちなど様々な立場からのコメントがあるのでリアルに感じることができる。
- 特集ページがどこまでか、が一目でわかるパステルトーンのラインが好印象。ページごとの、子どもとママ、子どもたちの笑顔をメインにした写真のメリハリが目をひき、ページごとの引き込みに成功している。
- 紙面を通してデザインのコントロールがされており、読みやすい。

最優秀賞

海田町『広報かいた』(令和5年10月号)



■発行部数(年間発行回数): 14,000部(12回)

■担当課: 企画課

■連絡先: 082-823-9212

【担当者より(主な記事の掲載意図)】

メイン特集である「今をときめくまちのあの人に会いに行く」では、町で輝く人の魅力や町への思いを引き出し、町の魅力を発信することで、町民の皆さんにこれからもここで暮らしたいと思ってもらうために様々な方に取材を行った。今年度からの新連載となった「今月の注目のTOPICS!!」では、その月で大切な情報を視覚的に伝えるために、デザイン性のある誌面とし、毎月固定で情報発信を行った。

＝講評＝

- 海田町の「人」にスポットをあてた特集。読みやすい分量で、ていねいにインタビューされている。
- 地元で頑張る人の巻頭特集や町民に注目してもらうためのコーナーの企画等、発信するという役割はうまく果たしていると思う。
- 読みにくくなく、分かりやすく伝えようとまとめてあると思う。
- 丁寧でわかりやすい表現がなされている。とても読みやすい。
- 全体を通して、左右の端に見出しが付けられていたり、色で企画が分けられていたり読みやすい工夫がなされている。

優秀賞

北広島町 『広報きたひろしま』 (令和5年10月号)



- 発行部数（年間発行回数）：8,000部（12回）
- 担当課：総務課
- 連絡先：0826-72-7357

【担当者より（主な記事の掲載意図）】

日本植物分類学の基礎を築いた牧野富太郎博士と北広島町八幡のつながりを町内外問わず多くの人に知ってもらうきっかけになればと思い掲載しました。ドラマの影響もあって今では知らない人が少ないくらい的人物ですが、八幡の住民のみなさんは長く牧野博士とのつながりを大切に、「カキツバタ」の保全に取り組まれています。その活動の一部を知ってもらい、カキツバタの花が咲く時期に開催されるお祭りに多くの人が足を運んでもらえるように。そんな思いでレトロな紙面をイメージして作成しました。

＝講評＝

- 特集のところはきちんと書かれてあり、ちょっとした裏話エピソードに、作り手の想い、楽しむ気持ちが見えてよい。
- フォントデザインも含めて、町民に伝わりやすく、わかりやすいようにまとめられている。
- 白黒だが、文字の大きさやイラスト、レイアウトがうまく配置され、違和感なく見ることができた。
- 中面は二色づかいですが、ポイントポイントでのカラー（赤）づかいが読みやすく、文字の大きさや空白の取り方など、レイアウトも的確です。フルカラーでなくても読みやすく、見本となるようなレイアウト。

写真部門・一枚写真の部

最優秀賞

大竹市『広報おおたけ』（令和5年11月号 表紙）



■担当課：企画財政課

■連絡先：0827-59-2124

【担当者より（掲載意図）】

毎年10月第3日曜日に挙行されている大竹祭。コロナ禍により、昨年までは規模を縮小して行われていたが、今年は晴れて通常開催ができる運びとなった。

大竹駅前から約3kmの道程をやっこ行列や山車が巡行する中でも、装束の色も鮮やかな「華みこし」をピックアップした。みこしを担ぐ女性たちのうれしそうな表情が、日常のありがたさを実感させてくれたような気持ちにさせてくれるのではないかと考えて掲載した。

＝講 評＝

○女性だけの神輿があるのも面白いが、とにかく楽しそうな表情にこちらもつられてしまう、インパクト勝負の写真表現だと思う。

○神輿をかつぐ人の並びなどもきれいに計算しており、後ろの人まで映っている。迫力がありながらも、整理されている写真

○女性たちの表情が最高。後方の女性の顔もずらっと入り込んでいて、絶妙の瞬間をとらえている。

○紙面タイトルを神輿の背面に入れる一工夫によって、写真の存在感が増している。

優秀賞

呉市『市政だよりくれ』（令和5年8月号 表紙）



■担当課：秘書広報課

■連絡先：0823-25-3236

【担当者より（掲載意図）】

サップなどのアウトドアスポーツを特集した広報紙の表紙として撮影したもので、それらの魅力を最大限伝えたという思いから、一目で印象に残る「サンセットサップ」の撮影に挑戦しました。日の入りのタイミングを狙ったことで、短い時間で撮影する難しさもありましたが、色合いが非常に映える表紙に仕上げることができています。

＝講 評＝

○夕日のおいしいタイミングはプロでも難しく、撮影者もドキドキしたと思うが、伝えたい写真が表現できていると思う。

○光芒を捉えるためのF値の設定、露出やホワイトバランスの設定など、優れている。

○文字サイズを控えめにすることで、写真の雰囲気をも十分に生かしていると感じる。

写真部門・組み写真の部

最優秀賞

北広島町『広報きたひろしま』（令和5年7月号 表紙）



【担当者より（掲載意図）】

今年は観客を招いての開催となった「壬生の花田植」。この花田植に欠かせないのが牛による代かきです。華やかな装飾を身にまとった牛と牛追いが息を合わせて多くの観衆が注目する会場の舞台を整えます。そのなかで麻紐と牛追いの笑顔が輝く一枚を撮ることができました。今回は女性の牛追いも活躍していたので、多くの人に知ってほしいと思い、水面に透過させる形で写真を組み合わせてみました。

＝講 評＝

- 一瞬、「組み写真？」と思ったが、合成で表現とはアイデアがすごいと感じた。
- アイデアが素晴らしい。
- メイン写真の表情と色あざやかなコントラストが、1枚写真でも強いと思う。よいタイミングで撮影できるのもカメラマンの技術の一つ。
- 牛追いの表情がとてもよい。

■担当課：総務課

■連絡先：0826-72-7357

優秀賞

三次市『広報みよし』（令和5年8月号 2～3 ページ）



【担当者より（掲載意図）】

4年ぶりの開催となった「三次きんさい祭」の写真。祭りの復活を心待ちにしていた市民の皆さんの喜びが最大限伝わるよう、被写体の表情を重視して掲載写真を選びました。参加者の皆さんがとてもいい表情をしており、使いたい写真がたくさんあったため、余計な文字は入れずに、写真メインの紙面構成としました。

＝講 評＝

- 大きくレイアウトした2～3枚の写真がしっかり芯となっていて、そのほかの中・小写真をドラマティックに並べてレイアウトしてある。
- 縦に横に広角を使い分けられていて、写真表現の強弱が祭りの勢いをさらに強くしている。
- 白枠でくぎってあるので、すっきりした印象。重くなりすぎない軽やかさが出ている。

■担当課：秘書広報課

■連絡先：0824-62-6396

最優秀賞

廿日市市「千年先も、いつくしむ。」



- 放映方法：TVCM スポット、特設サイト、YouTube 広告
- 担当課：宮島企画調整課 ■連絡先：0829-30-9119

【作品のあらすじ】

宮島の原点である「神をいきまつの島」の姿を伝えるプロジェクトムービー。この動画では、ご神体として崇め慈しまれてきた宮島の自然や、文化の彩り（香り）を、オリジナルの楽曲に乗せて紹介している。

【担当者より（制作意図）】

廿日市市は、「宮島まちづくり基本構想」を道標として、持続可能な観光地域をめざす「千年先も、いつくしむ。」プロジェクトを立ち上げ、先人から受け継がれてきた宮島の普遍的価値や魅力を「宮島ブランド」として、広く国内外に向けて発信する動画を制作した。この動画を通じて、「宮島に暮らす人」「宮島で働く人」「宮島を訪れる人」「宮島に想いをはせる人」など、宮島に関わるすべての人にプロジェクトを理解いただくとともに、宮島で「住んでよし、訪れてよし」の地域づくりを力強く進めていくことを狙いとしている。

＝講 評＝

- 神の島を伝える題材はすごく難しいとは思いますが、伝えたいことをシンプルに見せて国内のみならず海外向けを意識し制作されている。
- 宮島の自然と、共に生きる人の息吹や営みとを合わせた圧倒的な美しさを感じられた。
- 千年先もいつくしむというキャッチコピーを芯に据えて、3分という短い中で、最大限ゆったりとした時間を表現するプロ技を感じる。外国人の方に向けたものだと思われ、幻想的な JAPAN への憧れを表現できていると思う。
- 四季折々に長期間にわたって撮影された「厚み」、ドローン撮影による「大きさ」が伝わってくる。
- 神々しくも肅々とした雰囲気映像、音楽もナレーションも非常に質感が高く、繰り返し見たくなるコンテンツに仕上がっている。

映像部門

優秀賞

三原市【あなたはどう楽しむ？三原やっさ祭り】



■放映方法：市公式 YouTube

■担当課：広報戦略課 ■連絡先：0848-67-6016

【作品のあらすじ】

4年ぶりに制限のない完全開催となった今年のやっさ祭りを盛り上げるため、「あなたのやっさ祭りの楽しみ方」をテーマに市民アンケートを実施し、その回答の中から7つのエピソードを1本の動画にまとめました。「やっさ祭りを見て楽しむ派」、「参加して踊って楽しむ派」など、寄せられた様々な楽しみ方の中から、観た人が共感・注目するエピソードを、祭りの開催前に動画で紹介しました。

【担当者より（制作意図）】

今回の動画は、観た人が「くすっ」と笑えるような、ユーモラスな動画を制作し、祭りによる市内の盛り上がりにつながればと考え制作しました。この動画によりやっさ祭りへの期待感を高め、祭りへの愛着を深めるとともに、新たな魅力を発見することができました。また、祭りに参加したことがない市外、県外の多くの人にも、この動画を見て「やっさ祭り」を知ってもらえることで、三原市に関心を持ち、訪れてもらえるきっかけになったと考えています。

＝講 評＝

- 参加者（市民）それぞれの関わり方で伝える「やっさ祭り」という視点がよかった。
- 三原の代名詞である踊りの紹介でなく、観客目線それぞれの楽しみ方という企画は新しく感じ、見る人を惹きつけることに成功していると思う。
- やっさ祭りにかける地域の皆さんの思いがたっぷり詰まった動画でした。
- お祭りそのものを映すのではなく、それまでの気持ちに焦点を当てて表現しているのが面白い。
- カメラワークやキャストの表情などすごくリアルで、それぞれの思いがうまく映像化されていると感じた。